

～インタビュー～

利用する側、運営する側の立場の方に、これからの公民館の在り方について、聞いてみました。

それぞれの地域のニーズに合わせた運営を

「公民館へ来てくださーい」と言われても、何も用事がなければ、公民館は敷居の高いところ、行きにくいところ、地域の人が思いやりのないところ、ちよつとのおいでなうかなと思えるような行事（地域のもちつき大会、カラオケ、年配の方々が遊んでいた昔あそび）を実施するなど、気軽にいき来できる工夫をしてももらえたらと思います。

公民館に人が出入りする中で、その地域のニーズを知ることができ、地域とのつながりが生まれてくるのかなと思います。



石垣博之さん
(48歳)
港町在住

理解者や協力者を増やすことが地域の輪を広げる

宮崎地区で昔から受け継がれてきている伝統的習慣、文化を大切に、住む人の心が豊かに、心身ともに健全な生活を送れる地域をつくりたいと願っています。

そのため、公民館活動の協力者、理解者である自治会、婦人会、老人会、青少年育成会、母親会、子どもクラブといった各種団体の方々のご支援を得て、公民館活動に関わったことのない人に呼びかけ、実際に活動を体験していただき、地域の輪を広げていきたいと考えています。



梅本広治さん
(66歳)
宮崎公民館館長

各地区公民館の特色ある活動

糸我公民館主催事業



地域住民の願いに応え、地域の男性の居場所づくりとして、「男の料理教室」を実施。地域の男性たちが交流し、つながりかけとなっています。

港町公民館通学合宿



公民館で、地域の子もたちが、寝食を共にする2泊3日の通学合宿。地域の方々の力を借りながら、すべて自分たちの力で生活しています。

宮原公民館宮原コミュニティの会



平成24年4月、地域各団体のつながりを深め地域の絆をより深める趣旨で「宮原コミュニティの会」(地域34団体により構成・事務局宮原公民館)を設立。随時研修や意見交換等を実施しています。

保田公民館主催事業



地域の子もたちとお年寄りが交流する機会として、いっしょにランドゴルフを実施。お年寄りの方は、子どもたちにランドゴルフを教えることに「生きがい」を感じています。



つなげる
つながる
地域の力!

わがまちでも少子高齢化や核家族化が進み、人間関係の希薄化が懸念されます。言い換えると、お互いが助け合う、協力し合うという意識の低下につながり、地域社会の在り方も大きく様変わりすることにつながります。

公民館は、各種行事を通じて、地域の人と人との知り合い、つながりを広げていく、地域コミュニティの場として期待されています。

特色ある公民館体制

市内の公民館は、8つの連合自治会ごとに1館ずつあり、館長・主事・主事補3名の体制で、それぞれの地域に根ざした運営を行っています。これは「和歌山県内では有田市のみであり、全国に誇れる特長ある公民館体制」と言えます。

市民の皆さんから公民館に対するイメージとして「特定の人たちが、楽しくサークル活動しているもの」という声をよく耳にします。そういったこともあり、公民館では「公民館の果たすべき役割とは何か」をしっかりと考え、平成25年度から「地域ふれあいルーム(放課後や休日の小学生の安全・安心な居場所づくり)」をより充実させ、小学生が地域の大人の人たちと交流したり、様々な体験学習にチャレンジできる取り組みを行っています。

また、通学合宿では、子どもたちのたくましく生きる力を養うため、地域の自治会、青少年育成会、婦人会、老人会等様々な団体の方々のご協力をいただいています。さらには、地域の老若男女を問わず、誰でも公民館へ来てもらえる、または「公民館へ行ってみようかな」と思ってもらえるような催し等を考えています。

より良い公民館を目指して

地域の人々が公民館を拠点としてつながることで、地域の問題点を知り、「みんなで解決していこう」という機運を高め、行動につなげていくことが、より良い公民館運営を目指す道だと考えています。そのため、市内8公民館ごとの特色を生かした活動ができるよう、和歌山大学地域連携・生涯学習センターの協力を得ながら、社会教育委員会、現在、調査及び検討を重ねているところです。

皆さんお気軽に公民館へ立ち寄ってください。